

■令和6年度第4回会津美里町高田地域まちなか賑わい創出協議会 開催記録

日時:令和7年3月26日(水)18:30~20:30

場所:会津美里町役場 2階 大会議室

出席者:7名/17名

事務局:4名、コンサルタント:2名(オンライン参加)

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 協議事項

(1)高田地域まちなか賑わい創出基本計画(案)について

○委員長

- ・本計画は今後の方向を示すもの。行政と民間が共通認識を持って進めて行くためのもので、大きな枠組みと考えれば良い。
- ・今後、活動していくにあたり、環境の変化で違うとなったら随時変えていくことができる。第一歩の指針と考える。

○委員

- ・高田駅周辺については含めるのか。含めないのか。

○事務局

- ・やりたいことが全てできるわけではないので、一番優先する地区を伊佐須美と横町門前町として重点的に取り組むとの考え方。今後、エリアプラットフォーム（以下「エリプラ」という。）の成長具合等も見ながら、やれることをやっていければと考えており、対象エリアに含めるに留まったところである。
- ・p21旧公民館跡地周辺エリアは、高田駅も含めた表現（カフェや待合、トイレなどの美化）としている。

○委員

- ・せめてトイレくらいは早く整備してほしい。高校生も利用しやすい。今は使いたくないトイレだ。

○委員

- ・今すぐではないかもしれないが、エリプラに高校生を入れたらどうか。高校生と一緒にJRにプレゼンに行ったら効果があるのではないか。

○委員長

・エリプラを進めるなかで、町民の意見が様々出てくるだろう。例えば、高校生の声をすいあげて、やっていこうという意見もでるかもしれないので、そうしたら、やってみたらいいと思う。

○委員

・高校生が自分たちの活動として、トイレを掃除したり、よくなる方法を考えたり、実際に活動しているのに、こうした活動が役場の施策や地域住民に認識されないことがもったいない。チャレンジショップに高校生が入ってもいいし、いろんな経験をさせてあげたい。

○委員

・旧あやめの湯は廃止とあるが、解体するとの意味か。もったいないと思う。

○事務局

・解体の方向で検討している。

○委員長

・ワークショップでは利活用の方向で議論があったが、町がよく調べたら、億のお金がかかることがわかった。また、仮に改修するとしても、耐用年数を考慮すると、お金をかけるのはもったいないのではないか。建て直した方が、長い目でみると安いのではないか。という結論になった。

○委員

・隣接施設の利活用とはどこのことか。

○事務局

・あやめ苑のこと。屋根と外壁の改修を2年前にしたばかりであり、温泉よりは、あやめ苑の方が活用できる。

○委員

・あやめ苑の活用について、現在使用している社会福祉協議会は何か考えているのか。

○事務局

・各地域でやっている活動を今後集約していくとのこと。今度地域おこし協力隊を1名投入し、ボランティア活動を推進していく予定とのこと。

・町が提案したコンビニズムについては検討中。まちなかにあった方がいいとの意見もある。

○委員

・エリプラに社会福祉協議会は入らないのか。

○事務局

・今後、入れる可能性はある。

○委員長

・エリプラメンバーにするのか、エリプラと連携して個別案件で活動してもらうのか、どちらもあり得ると思う。

・エリプラは全体の方向性を示したり、話し合ったりする場だと考えている。

・伊佐須美を中心に考えると旧あやめの湯はもったいない気持ちはあるが、事情があるので解体の方向。その後の更地のままでもよくないので、そうした活用についても、今後エリプラで一緒に考えていきたい。

○委員

・「エリプラが主体」の具体的なイメージがまだわからない。これまで行政が行っていたことを、民間がどう実施するのか、イメージがわからない。

○副委員長

・それについては議題3で詳細を話す。

(2)パブリックコメントの実施について

基本計画（案）について、事務局より1章から順に説明し、委員の意見を伺った。主な意見を以下に示す。

○事務局

・パブリックコメントは、3/10（月）～4/9（木）で実施中だが、まだ意見が出ていない。

・委員の任期は3月までのため、本日時点のもので承認いただきたい。4月以降、パブリックコメントや庁議で意見が出た場合には、暫定的に委員長、副委員長に相談し、最終的に決定したいので、ご了承頂きたい。

○委員

・パブリックコメントはどこで広報しているのか。

○事務局

- ・ホームページや広報紙により広報している。

○委員

- ・対象エリアに住んでいる人に聞いてみたらおもしろいだろうと思う。

○委員長

- ・色んな方に見ていただき、町をなんとかしたい、という思いを共有したいので、みなさんの周囲の方にパブリックコメントを見ていただくよう、声をかけていただければと思う。

(3)「高田まちなか賑わい創出エリアプラットフォーム」について

(4)「高田まちなか未来ビジョン」について

※3～4を続けて説明。

○事務局

- ・大木委員が立ち上げる会社「セトラースタジオ」に事務局を担って頂く。これまで行政が行っていたことを担っていただくことになる。
- ・今後は民間同士なので、SNSやLINE等でやりやすい方法で招集することになると思う。
- ・空き店舗（元ミヨシ）を拠点として整備し、人や情報が集まりやすい場所になればと思う。

○委員

- ・マルシェについてまずは話し合うことが優先との理解であっているか。

○事務局

- ・旧公民館跡地にトレーラーハウスの設置を考えており、その活用方法についても話し合っていきたい。また、エリブラの愛称をみんなで考えてほしい。マルシェを中心に、メンバーで話し合い、できるところからやっていくというイメージ。
- ・具体的に何をしていくのかは、委員長と話し合って、年間スケジュールをきめたい。

○委員長

- ・町の見聞として、マルシェが予定されているなど、スケジュールの全容が自分も分かってない。今後、町と副委員長とで整理するので、今後の詳細については、いったん預か

らせてほしい。みんなで気楽に話し合える、定期的な集まりを設けたい。みなさんの意見を入れていきたいので、ぜひ参加して頂きたいと思う。

- ・ただ、1回目は6月と決まっているようなので、早急に集まって、みなさんの意見をお聞きする必要がある。

- ・また、拠点といっても、どのように使うのか、いつから使えるのか、そういったことも整理したい。

○委員

- ・現状では、町民が儲かるマルシェになっていない。あと2ヶ月では新しいことをするのは難しいだろう。現在は地元の当事者の理解がないので、どう進めて行くのか。地元の当事者がよしやってみよう、とならないと動かないと思う。成功例をどう見せていくか。

○委員長

- ・自身もマルシェ実施方法については詳細を把握していない。

○委員

- ・商工会主催で、一般社団法人 TORCH やこらんしょ Woman も入って、マルシェの出店者のとりまとめをやってきた。

- ・丸投げされても急にはできないので、今までやってきたノウハウのある方をお願いした方が良い。

○委員長

- ・事務局で決めないで、みんなで話し合って進めていければと思う。なんだそれとなったら失敗なので、丁寧に慎重に発言して頂ければと思う。

- ・マルシェに確固たる狙いはあるのか。例えば商店街が儲かるなど、趣旨や目的を皆で共有してやる必要がある。

- ・こうしたことも含めて、自分で情報や意見をいったんすいあげて、整理して、みなさんに集まって頂き、相談したい。

○委員

- ・「行政のサポート」とはどのようなやり方か。必要に応じてか。未来ビジョンに沿ったものであれば、支援するのか。相談相手ということか。

○委員長

- ・基本的に行政とエリプラは対等。エリプラは自分たちでミッションを考えて事業を作っていく。話し合ったことは行政に随時共有する。行政も何か提案があれば、エリプラに提案相談する。個別の案件ごとに相互での提案やサポートができればよいのではないかな。
- ・ただ、予算がないので、今は個別の予算化の際に町に相談したり、寄付を募ったりする必要はある。行政がやるべきといったものをエリプラがやるわけではない。

○委員

- ・例えば、行政がイベントを企画する際に、相談できる組織になるといいなと思う。

○委員長

- ・集まりがある時には、行政にも声をかけて実施したい。行政との間に壁はない。困ったことがあれば、相談したり話し合ったりしないと意味がない。

○事務局

- ・4月には本郷でも同様の協議会を立ち上げ、年度内にはエリプラを設立する予定である。高田と本郷で別に活動するのか、一緒にやるのか、今後課題になると思う。
- ・エリプラで重要なことは、自由に、みんなの考えをすぐに取り入れて迅速に実行できること。新しい価値観ができるのではないかな。町がやると命令になり、税金が入るので自由がない。積上げではできないサービス設計ができるのではないかな。夢と希望があると思う。楽しくやれば自然と人が集まるのではないかな。

○委員

- ・エリプラでマルシェを運営するのか。
- ・今までやってきた方々は入らないのか。彼らが入らないでできるのか。

○委員長

- ・関係者には参加していただきました。垣根なくやりたい。これも含めて、一度、整理したい。

○委員

- ・マルシェも今までと同じでは意味がないので、みんなで考えたい。

○委員

- ・賑わいを創るためには、来た人が喜ぶことをやる。そうすれば儲かる。これは商売の基本である。

○委員

・一度出店したことがある。一生懸命準備して頑張ったが、疲れた割に儲からなかった。一度は付き合いで参加するが、ありがとうだけではなく、お金が落ちないと続かないのではないか。

○委員

- ・来た人が喜ぶイベントをやり、人が2倍3倍になれば、儲けも2倍3倍になる。
- ・ただ、手間暇や人件費を考えると、マルシェ等の出店は赤字かトントンになる。

○委員

- ・商品をどうブランディングしてどう価値をつけるか。商工会と相談する必要がある。

○委員

・子どもの居場所づくりという意見が出ているが、いつ頃に公民館跡地に建物が整備されるのか。

○事務局

- ・トレーラーハウスについては、今年度補助金に応募し、設置することを予定している。補助金の要件でコミュニティ施設や災害時も利用できるようにする必要がある。また、舗装も行う予定である。トイレと駐車場を整備することを先に始めたい。例えば、新潟の「ピアばんだい」のような、トレーラーハウスの集合体をイメージしている。
- ・子どもの居場所づくりを希望する方がいるので、連携を図っていきたい。

○副委員長

・居場所ができないうちは子どもたちがかわいそうなので、どこかに設けられればと思う。

○委員長

- ・子どもの居場所づくりは誰が主体となて行うのか。

○事務局

・某法人から打診がある。エリプラは子どもの居場所への提案をする。エリプラはやりた
い方につないでいく。

○委員長

- ・整備は町が行い、運用はエリプラが主体となる。出店者の募集もエリプラが担当する。やりたい方がいるのであれば、法人が主体となる。

○委員

- ・トレーラーハウスのひとつが子どもの居場所となるのはいいことだ。

○事務局

- ・町が整備したものについて、マッチングをエリプラがやってくれたらよい。
- ・町内にもトレーラーハウスを導入している例がいくつかある（ラーメン屋、RV パークなど）。昔のプレハブより、設備がよくおしゃれなものが整備できる。
- ・あくまで、完全な店舗ではなく、臨時的に利用するイメージ。

○委員

- ・例えば、1 台は高校生に任せることもできる。

○事務局

- ・うまく活用して頂ければと思うが、まだ補助要綱の詳細を確認できていないので、よく読んで、しぼりがいいか確認したい。

○委員長

- ・町の方でも、まだ事業計画にはなっていない状況である。

○事務局

- ・チャレンジショップでやってみて、ある程度できそうだったら、予算化するというのがれにしたい。
- ・伊佐須美でそれができて、もっと大きくとなれば、将来の施設につながる。

○委員

- ・伊佐須美に来た人は飲食したい人が多いと思う。あそこを賑わいの中心にできたらいい。

○委員長

- ・この町では民間でやる場合はなかなか採算が取れない。民間が参入するための環境づくりについて町へ提案していけたら良いと思う。例えば、伊佐須美でトレーラーハウスを置くことについて等。エリプラはそういう場でもある。

○委員

- ・ワークショップで、子どもの遊びという意見があり、イラストにも遊具が表現されているが、予定はあるのか。

○事務局

- ・今後検討していきたい。

○委員長

- ・計画はまだ具体的ではない。これから一緒に考えていきましょう、というもの。

○委員

- ・PDCA を回し、5 年後に評価となっているが、毎年何かしら PDCA が回っているかどうか評価する体制を整えていく必要があると思う。やってみないとわからないが。どうやって体制を作っていくかが今後の課題。うまく PDCA が回れば良いと思う。

○事務局

- ・会津大学短期大学部とも今後も連携できるかと思う。

○委員

- ・エリプラに参加したいという若者がいる。6 月のマルシェまで時間がないので、次回の集まりに来てもらっていいか。地域の活動にも関わっており、アイディアも豊富。子どもの居場所づくりにもアイディアを出してもらっている。

○委員長

- ・来てもらって良いと思う。

○委員

- ・みんなでコミュニケーションを取りながらやっていけたらいいと思う。

○委員長

- ・事務局はグループ LINE を早急に作ってほしい。
- ・次に集まる候補日は4月の1週目、2週目あたりとしたい。詳細は LINE に流す。場所は未定

○委員長

・「ジュニアエコノミーカレッジ」という商工会議所主催の子どものイベントがあり、美里バージョンをやったらどうかと考えている。補助金を取り、みなさんに提案してみたい。

・自分も、これまでの人脈と経験をエリプラに活かしていければと思う。

・補助金によって対象は異なるが、エリプラのような任意団体でもひっばれるものがあるので活用していきたい。

○委員

・補助金を取ってから考えた方が早いのではないか。

○委員長

・それでは補助金はもらえない。計画があって、補助金をもらう流れ。

○委員

・今はそのような補助金はない。自立できるように、計画を立てる必要がある。

○委員長

・エリプラはあくまで、町と肩をならべて、一緒にやる組織と思っている。協議会は終了するが、エリプラは町へ意見を提案する入口だと思って今後も関わって頂ければと思う。皆さんの意見が出尽くしたようなので、協議を終了する。

4. その他

5. 閉会